

私、デストロイヤー

カカオの錬金術師

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

気がつけば鉄血人形になっていた。どうしよう？

目次

デストロイヤー・G 起動	1
基地の手荒な歓迎	5
仲間入り	11
流浪のデストロイヤー	18
人類至上主義？くたばれ	23
旅の道連れ	28
ハジメテ	33
とんぼ返り	38
掃除当番デストロイヤー	43
I・O・P の家政婦	49
ヴィオラの私服	54
ヴィオラの大改革	59

ふあつきゅー世紀末
The End

デストロイヤー・G 起動

一日目・不明

一体全体どうしたんだろう？僕は覚えている限りでは極々普通に生活していた平成人だったはず。

ぼんやりと覚えているのはいわゆる僕がオタクって呼ばれる人種でドールズフロントラインに熱中していた事だ。

それ以外はすっぱりと抜け落ちているんだけど…混乱した頭は鈍く動く。漠然とした感想でしか無いけどこの身体は間違いなく僕の身体ではない。

まず1つ異常なのが言える。僕は普通の人間だったんだ。

腰にこんなでつかい榴弾砲なんて付いてるわけがないんだ。

鏡を見て僕は納得することになったんだけど…

どうやら僕はドールズフロントラインの敵BOSSのデストロイヤーになっちゃったらしい。

それも上位種のデストロイヤーガイア。わー可愛い…

ちようど良く割れた鏡の破片があったから確認できたんだけど鉄血人形になってし

まったらしい。

ここはどこなんだろうか？僕の頭の中には記憶なんてないし都合よくマップなんてのも落ちてない。

ただ通路の随所に見受けられるマークから鉄血工業の施設内というのは窺える。今後どうなるか不明なため行動を日記として纏めることにした。

案外後で役に立つかもしれない。

取り敢えず自分の体の動かし方を確認して今日は眠ることにする。

もしかしたら夢か何かかもしれない：現実逃避だけど僕にはそれしか出来ない。

二日目・曇

残念ながら夢の類では無かった。寝て覚めた場所は鉄血施設のどこか。

リネン室と思われる寝具が置かれていた場所で寝ていたが：

猛烈な空腹感で目が覚める。食料の類は無いのだろうか？

そもそもこの身体の食料はなんだろうか？人間と同じで良いのだろうか？

様々な疑問が脳内を往来するがこの空腹感をどうにかしたい。

施設内をフラフラあるき回るが電源は生きているが肝心の鉄血人形と会わない。

破棄されたのか？いや、それにしても施設が綺麗すぎる。

疑問は尽きないがそれより食料を探さなければ。

この空きつ腹を満たせるものなら何でも良い：

窓らしきものがあり外の様子を窺えた。外は曇天、日時は不明。

食料らしきものは微量ながら発見できた。

倉庫と英語で書かれた箇所を発見。何故か英語の読み書きが流暢に出来ているのに今気づく。

加えて言えば昨日脳内でつぶやいていた事は全て行動ログとして保存されていた。

人形の身体になったというのだろうか？

人形にそっくりな人間ではないか…と勘ぐっていたがそれは違うようだ。

このデカイ榴弾砲も可動させようと思えば可動するのかもしれない。

感覚的に何となくこうじゃないか？と言うのはあるが…確証はない。

追記：食料は激烈にマズい。

施設内の散策を行う。全容の把握に務めたが…やはりというか人っ子一人居ない。

まさしくもぬけの殻だ。電気は生きているがジェネレーターの稼働時間は残り少ない。

各種機器の扱いは感覚的に引き出せているが…細かい操作は不明だ。

マップデータを呼び出せたのは僥倖。どうやら前線基地のようだ。

基地の手荒な歓迎

四日目・雨

目が覚めたらコンクリート打ちっぱなしの部屋だった。

何がどうなってるのやらわからない。両腕には手枷がされている。

鎖で繋がれていてまあ……いわゆる拘束状態だ。

最後に記憶しているのはグリフィンの人形部隊がテザーで痺れさせてきた光景。

まあ鉄血人形だから仕方ないな。武装の榴弾ベルトも外されていた。

これは本当にしようが無い。僕だってそもそも動かし方がぼんやりしてた。

何かの拍子に誤爆して殺処分なんて事になったらたまったものじゃない。

目覚めれば鉄血のマークの入った施設。明らかにオーパーツ染みた機械類。

そして極めつけはゲームで触っていた戦術人形たち……間違いなく僕は遊んでいたゲームの世界に入り込んでいる。

ドールズフロントライン……核戦争勃発後の世紀末世界だったか。

男か女かはもう忘れてしまっているが僕はそんな世界に生きる人形に惹かれていたんだ。

幸か不幸か実際に見て触ってコミュニケーションが取れる…

現実には小説より奇なりとは言ったものである。

小さな採光窓から見える空模様は生憎の天気だ。

さて、扱一的には僕は捕虜といった所か。最低限の扱いは期待して良いのだろうか？

ざあざあと降り注ぐ雨の音を聞き飽きた頃だ。

唯一ある扉から人形が入ってきた。確か彼女はMP5。

公式から色々となタにされがちな子だ。

何故かゴリゴリマッチョにされていた記憶がある。

僕に食事を与えるために来たらしい。

簡単な会話をすると怪訝そうな顔を浮かべていたが敵意が無いのは納得してもらえたようだ。

追記：やっぱり飯がマズい

五日目・曇り

人形の身体はどんな体勢であろうと眠れるし身体が痛むことはないらしい。

しかし今日の目覚めは最悪だった。相変わらず拘束された状態で水をぶっかけられた。

水を吸い肌に張り付く髪の毛を振り払い見上げればそこに居たのは赤い制服を着た男。

まあ十中八九この基地の指揮官であろう。

バケツを片手に持つてゐることは水をぶっかけたのも指揮官だろうな。

その後に待つていたのは尋問だった。鉄血の情報をつげと暴力を振るわれた。

何も知らない、何も知らないと何度も言ったが信じてもらえなかった。

痛みに泣き喚いても暴力は止まらなかつた。

口の中が切れたのか鉄の味がする。僕が一体何をした？

何度も殴られた結果気絶することになった。

無駄に頑丈な鉄血ボディが恨めしい。

六日目・忌々しい晴れ

寝て起きてみたらあれだけいたぶられた痕は消えていた。

新陳代謝に近いなにかがあるのだろうか？

痛みに訴えても何もないと思つたのか次は記憶のサルベージを行おうとしてきた。

だが残念なことに僕の記憶領域は見事なまでに空っぽと来た。

代わりにあるのは僕のこの行動記録だけ。

指揮官にそれを確認してもらった所でもう一度言った。何も知らないと。

忌々しそうに舌打ちして監禁部屋から出ていった。

僕の扱いはどうなるんだろうか？

七日目・雷雨

だんだんとこの身体についての理解が進んできた。

身体の大半は生体パーツで生成されている。ぶつちやけると人間に近い。

でも脚部や腰に装着されている武装はかなりのハイスペックなマシンボディ。

特に榴弾砲の火力はバカにならない。E・L・I・Dだろうが直撃させれば活動停

止に追いやることも可能。

榴弾の規格は国際規格に合わせていて弾薬補給には困らないらしい。

さすが企業製、そういう所は考えて作っているみたいだ。

目視で標的を捉えたら自動で射撃角を計算して撃ってくれる優れもの。

僕が考える事はない。補助CPUが演算するらしい。

元々のデストロイヤーのAIはポンコツ気味だったと思う。

今日はこの基地の副官を務めているらしいマカロフがやってきた。

どうやら僕の扱いが決まったらしい。I・O・P本社に送られて解析に回されると

のことだ。

敵意やその他のウイルス等が確認されなければそのまま自由意志でグリフィンにくかつかないかを選べる……らしい。

その間は僕の拘束は解かれぬとのことだ。

そう言えばあの鉄血施設はどうなったのかと聞けばあれはただのダミー施設だったらしい。

僕が置かれていたのはなぜだったのかは知らないけど……本来なら返り討ちにする予定だったのかも。

正直僕に出会って全滅を覚悟したって言ってた。

指揮官の暴力についても謝られたから僕はもう気にしてないと返しておいた。

あ、ちよ落雷で停電とか聞いてない。

八日目・晴れ

早速僕が移送される事になった。

最後にボディーチェックと称してあちこちベタベタ触られたのは癪に障る。

指揮官がデレツとした顔で胸を弄ってきた時はどうしようかと思った。

マカロフが蹴り倒してストンプ食らわせていたから水に流すことにした。

I・O・Pか…分解とかされないか不安がよぎるが敵意もない人形を分解するのはしないと信じよう。

僕としては特に敵対するつもりは無いし…プレイヤーだったからI・O・Pの人形は愛でたい。

かと言って鉄血人形を屠るって気も無い。争いごとはごめんだ。
早くこの拘束が解かれて自由に動けると良いな。

仲間入り

九日目・晴れ

D地区から丸一日書けて陸送された先はG & a m p ; K御用達のI・O・P本社。

巨大ビルにえらくSFチックな見た目のおしやれ本社だ。

これで手枷などが無ければ僕のテンションも上がっていたのだけど…

守衛の人形に背中にびったり銃を突きつけられてキリキリ歩かされた。

長い間拘束されて自由が効かなかった身体の節々が悲鳴を上げてるようにも思える。

護送車両の中もご丁寧に全身鎖で雁字搦めにしてくれたお陰で身動き一つ取れなかった。

そんな僕を見てから得意げに見てくる男性職員がついてたから余計に疲れた気がする。

疲れた僕を護送した先は…16 Lab? あああの開発ルームですか。

かろうじて残ってる平成人の知識の中にこびりついている物だ。

生ペルシカとご対面できるのか。嬉しい半面これは怖い。

だってあの人滲み出るマッド臭があるんだもん。

え、ちよ、アイマスクとか聞いてない。まっくら！怖い!!

手錠されたまま椅子に括り付けられて放置された。こういう趣味は持ち合わせていないけど。

頭には相変わらず小銃の銃口らしき硬い感覚があるから傍に人形は居るんだろう。いや、敵意ないって散々言ってますけど。聞いてくれる様子は全く無い。

「いい加減にしてくれないか、僕は散々敵意はないと伝えてる」
度重なる酷い仕打ちにいい加減堪忍袋の緒が切れかけてきた。

苛立ちを抑えること無く伝えるが：よくなる気配が無い。

アイマスクに隠れているかもしれないが流石にこうもされれば顰めっ面にもなる。

指揮官の暴力と言ひ僕に恨みが：鉄血人形には恨みタラタラか。

敵意ゼロアピールを続ける僕もなんだか馬鹿らしくなってくるな。

そんな顰めっ面な僕に対して真正面に誰かが座る。

足音と椅子がきしむ音から察した。話し方からして例のあの人だろう。

僕の目の前には恐らくペルシカが座っている。

非常に残念な頭のいい美人。生活力が皆無そうな女。

「キミ、結構シツレイなこと考えてないかい？」と聞かれた

鼻鏡をつくのはコーヒーの芳しい香りだ。ささくれ立った僕の心をなごませてくれ

る。

中々に勘が鋭いな、失礼なことはここまでにして…

名乗りを上げる前にこつちからペルシカの名を出しても怪しまれるだけだ。

残念なことに自己紹介はしてもらえなかったしアイマスクもつけられたままだったけど色々話をした。

他愛ない雑談から始まって鉄血事情や近年の情勢について…僕が知ってないことも教えてもらった。

ついでにこの後の僕についても教えてもらった。

ラボにて精密検査を行いAIについての調査とウイルス検査。

その後ちよつとしてから開放するかしないかの判断をする…とさ。

では眠ってもらうよ？何をす~~る~~つもり？痛くないよーってそれ痛いやつ

いったああああああああい
!!!!!!!

十日目・わかんない

首筋に何かを打たれて気がつけばベッドの上で眠らされていた。

軽くホルホル状態を味わったがアイマスクは外されてるし拘束具も外されている。

ついでに言えば腰の榴弾砲にも榴弾ベルトが再装填されていて十全な状態だ。

自由に動き回っても良いのだろうか?といっても施設のマップがわからないから迷子になる可能性がある。

迂闊に動き回ってまた拘束されるといいうのも御免だ。

しばらくすると見覚えのある目元に隈を拵えたケモミミ白衣がやってきた。

ああそうです。待望のペルシカさんとの対面ですよ。

かい摘んで説明してくれたが敵対的なプログラムは存在しなかった。

AIに関しては対ハッキングプロテクトのせいで触れなかったがI・O・P製の敵味方識別装置の組み込みに成功。

ウイルスの類が一番心配されたがそのキャリアーでは無かったことが告げられた。

望めばG&A m p ; Kで働くことも出来るが他のP M Cに派遣することも出来るし選択は自由だと言った。

もちろん今すぐに出なくとも良いというのがペルシカの談だった。

最後にとマップデータを渡されて僕は晴れて自由の身になった。

すっかり色々合わせてくれたんだだろう意思に応じてUIが浮かんでくる。

データの閲覧をしていってみれば…もう時間は0時を回っていた。

目覚めたばかりだが今日はおやすみ…

十一日目・晴れ

今日はちよつと試したいことがあった。

マップデータを参照すると武器のフィールドテスト用のグラウンドがあった。

僕の身体で出来ることの一つ：戦闘だ。

最初こそ戦闘は御免だつて思つたけど僕の扱いはおそらくは裏切り者。

鉄血から命を狙われる存在になつたのは間違いない。

では生き残るために武器を取らなければならない：

実際に僕が戦えるかどうかのテストをしたかった。

幾つも並ぶ的を視認、補助CPUが稼働し始め適切な射撃角を計算。

そして実際に榴弾砲がその角度に移行するまで1秒フラット。

射撃すればイメージ通りに榴弾が飛んでいき的を木っ端微塵に爆破した。

では移動するターゲットではどうだろうか？

移動先のイメージが出来ればそこに飛ばすことは出来た。

これは上々なのかもしれない。ただ不規則に動き回られては無駄弾を消費して絨毯

爆撃するしかないかも。

やつぱり銃が欲しい。戦うならやつぱり銃だよ。扱つたことは無いけれど。

十二日目・雨

考えたが私はG & a m p ; Kに入隊することを決めた。

ずっと僕と一人称を決めていたが女性なら私が良いかな？と改めた。

ペルシカにそう告げると早速向こうの社長に連絡してくれたみたいだ。

短い間だったけどありがとう、そう告げると抱きしめてくれた。

むしろ酷い仕打ちをしてしまって申し訳ないと謝られた。

取り急ぎ新しい制服を貰えるらしい。なんだろうか？

あと私に最適な武器の剪定もしてくれるみたいだ。

A S S Tシステムも組み込めたらしくて私も一介の戦術人形として肩を並べられる

らしい。

今日はドタバタとしてしまった。ちなみに私のメインアームは榴弾砲。

サブアームとしてM A G P U L / M A S A D A が支給された。A S S T 済み。

さらに左腕に大きな装甲板が追加された。これで私に盾をしろってこと？

新たに貰った名前はデストロイヤー・ヴィオラ

服の色は変わらないが胸元にG & a m p ; Kのマークが印字された。

十三日目・曇り

早速G & a m p ; Kに案内されることになった。
ペルシカに最後抱き合ってから別れを惜しんだ。

向かった先のG & a m p ; K社、早速と言いか戦術人形として働くことになる。

人形を撃つ覚悟はまだないが：

配属先はS O 9地区になった。ヘリコプターでの輸送か：

墜落するなんて聞いてない。ここどこ？

流浪のデストロイヤー

十四日目・晴れ

鮮明に覚えているのはヘリパイロットの悲痛な叫び声だ。

S09地区に向う途中でヘリはなにかに狙撃されて墜落した。

生き残っているのは私だけだ……救難信号は発しているけれども恐らく届かないと思われる。

マップデータは存在しない、どれだけ移動していたかも不明だ。

なんとかして現在地を特定しなければいけない。

風雨を防げる場所がないと凍えてしまって動けなくなってしまう。

今日の拠点となる場所を探さなければいけない。

不幸なことに墜落ポイントは森林が広がっている。

ひしゃげたヘリの残骸から這い出て周辺を見渡す……見事なまでに生い茂った密林だ。

食料についてはあまり期待できそうにない。

ついでに支給されたMAGPUL/MASADAは衝撃で動作不良を起こしている。

榴弾砲は頑丈でピンピンしている。安心の鉄血製。

でもこれではジビエなどは期待できそうにない。

動物に当たってしまったら粉微塵だ。

畜生、このままでは仮拠点も見つからないまま夜になりそうだ。

食料も無いまま私は夜を迎えた。

一人さみしく真つ暗な中を歩くのは心細い：

激動の二週間だ。考えられないことが次々に起こってる：

この身体になるまでは毎夜布団の上でゴロゴロしながらドルフロをしていたのに。

それが今では遊びもへったくれもない野宿か：

十五日目・曇

浅いスリープモードで夜を明かした。幸いにもこの周辺は氷点下まで冷え込まないようだ。

人形とは言え氷点下で長時間放置されると生体パーツが凍えてしまつて機能不全に陥る。

それにこんな森の中、野犬やそれに準ずる動物が跋扈している可能性が高い。

すぐに反撃できるように浅い眠りについていた：思った以上に私もピリピリしている。

追記：恐らくヘリの残骸が爆発したんだろう。デカイ炸裂音が聞こえた狙撃されたとなると上に出るのは危険だし敵勢力が近くに潜伏している可能性が高い。

鉄血製の無線モジュールにはそれらしき信号は察知できない。かなりの遠方射撃らしい。

パイロットの腕を的確に撃ち抜く狙撃手だ。厄介だな。

遠方を確認したくて木の上に登ったら恐らくだが撃ち抜かれる可能性が高い。

大人しく陸路を彷徨い歩く。食料が無いのが心許ないな。

十六日目・雨

全身びしょ濡れだ。雨宿りなんてできるところなんて無い。

ひたすらに歩く。ヘリが向かっていたはずの方向を目指してひたすら歩く。

人形は飲まず食わずで3日は満足に動けるがそれから先はどうなるか不明。

今日食料を確保できないとマズい。

野うさぎの群れを見つけた。食料だ。

適当に落ちていた石を剛速球でぶつけた。頭に当たったが見事に砕けた。

やった…これで食い繋げる…

味なんて覚えてない。あとに残ってるのは血の臭いと血まみれの私だ。喉が渇く。ちょうどいい雨だ。上を向いてひたすらその雨粒を飲んでいく。

十七日目・雷雨

ようやく街らしき建物の群れを発見した。雨宿りが出来る。

といつてもガラスは割れてあちこち爆撃にでも遭ったかのように穴だらけ。所謂ゴーストタウンだ。食料に関しては期待できそうにない。

スーパリーの倉庫を爆破してから中に押し入る。ホコリを被っていたが商品とかわしき物を発見した。

幸い少量の缶詰が確保できた：お腹いっぱい食べれる：幸せだ。

カーテン等を集めてきてはそれに包まって眠った：

この放浪生活はいつまで続くのだろうか？

十八日目・曇り

倉庫を仮拠点としてから街を探索する。

現在位置が知りたい。私の中には御大層なマップなんてものは存在しない。

かい摘んで聞いたS09地区の緯度経度くらいしか分かってない。

一番良いのはこの街の緯度経度が知れば良い。

あとは工具の類があればM A S A D Aを修理したい……支給されてから即刻壊したまままだ。

残念ながらこの街に有益な情報も道具も残ってはなかった。

倉庫に戻ってから缶詰を持てるだけ持って街を後にした。

人類至上主義？くたばれ

十九日・雨

街から続く道を辿っていく。道案内に沿っていけばどこかに出るかもしれない。

そう信じてひたすらに歩く。狙撃手がどこに居るかわからないからそのすぐ脇の森に身を潜めながらだけど…

手元にある缶詰は一食一缶として換算しても5食分だ。これは保存が効くからできるだけケチる。

あのうさぎみたく野生動物が居るならそいつらを狩って食う。

幸い人形は生で食っても下すような腹を持っていないらしい。

本来はSTANAGをぶら下げるポーチに缶詰を並べるのは仕方ないか。

標識を確認する限りでは次の街まではかなり歩くことになるが…一日歩き通せば辿り着けそうだ。

次にたどり着く街では何が見つかるのだろうか？

最悪だ、人類人権団体が占拠してる街みたいだ…

私の記憶にある限りでは人形に対して良くない感情をもった人間の集まりのはずだ。

迂闊に動けば騒動は免れないか……あまり奴らが寄り付かないだろう町外れの廃墟で一晩明かすとしてよう……

二十日目・晴れ

私が侵入したことはバレてないみたいだ。

武器や爆発物を持って出ていった組と拠点を守る人間が別れた。

倉庫を強襲してもいいが……後味が悪い、どこからか侵入できないだろうか？

巡回ルートが決まっている様子だ。見回りは4人。

内部に更に居る可能性が高い……殺すつもりは無いが怪我はしてもらおう。

私はここで死ぬつもりは無い。まだ、今はだけど。

C! (壁へドン!) Q! (床へ張つ倒し) C! (石剛速球) 最後の一人はドロップキックで気絶させた。

起きる前に屋内へと侵入……聞き耳を立てながら様子を伺いながら進む。

話し声があるが談笑しているようだ。やれ人形は人間に媚を売っていればいい。

人間の仕事を奪うのはおかしい、人形が居なければ人間の生活はもつと豊かだった……すべての責任を人形に押し付けているのか。

まあそんなのはどうでもいい、食料と工具をいただく。

たんまりと溜め込んでたな。胸いっぱい抱えて仮拠点に持ち帰る。

幸いに工具もあつたからM A S A D Aの分解整備もできそうだ。

数時間後に連中騒ぎ始めたが後の祭りだ。

私は見つからずそのまま奴らが溜め込んでた食料摘みながらのフィールドストリッ
ピングに勤しんだ。

二十一日目・曇

人類人権団体は施設の防備を固めたみたいだ。

もう一度侵入となると困難そうだからもう近づけないな。

ただどうも私のへりを撃ち落としたのは彼ららしい。

所謂ラッキーショットを貰ったらしい：不運だ。

大型の狙撃銃を担いだ男が自慢気に語っていた。

私の装備だが：M A S A D Aは息を吹き返した。

強いショットで内部パーツが一部脱落していたみたいだ。

これだけで済んでいたのは幸いだ。これでS T A N A Gを拾えば継戦力が上がる。

人を撃つ覚悟は無い。悟られずそつとこの街を離脱しよう。

巡回員が多すぎて迂闊に動けない。すぐく嫌だが下水道を通ることにする。

うげ…酷い臭いだ…あ、まって榴弾砲が引つかかって入れない。
結局諦めて目を掻い潜りながら離れていった。

途中入った廃屋でバッグを見つけたので仮拠点に置いてた食料を取りに戻った。
工具は…返却ついでに見張り兵が邪魔な時に投げつけて気絶させた。

二十二日目・晴れ

バッグの中身の食料を漁りながら行軍する。幸い私の中にコンパス機能はあった。

といっても現在の緯度経度はわからない。どの方角に向かえばいいかわからな
い。

一人寂しく歩くことにも慣れてきた。

遠くで銃声が聞こえる。

MASADAのセーフティを解除してから走る。

どこかの部隊と合流できるかと思ったら残念ながらもう移動した後だった。

あとに残っていたのは鉄血人形の穴だらけになった残骸だった。

割れたバイザーから覗く目に合った。

覚えてないが多分吐いたのだと思う。

人形の残骸は映像でみた人間の死体に似通っていた。

壊れ方も血飛沫の飛び方も。

途中で落とし物を拾った。

P M C 武器庫？知らない P M C だな。ドルフロにそんな P M C 居たか？

旅の道連れ

二十三日目・晴れ

死体・死体・死体・死体・死体・死体・死体

歩けど歩けど見渡せど見渡せど見つかるのは鉄血人形の死体。

いい加減見慣れてくる。口の中が酸っぱくてしかたない。

S09地区はどこだ？私は今どこにいる？

丸一日食事していない。食った所で戻すだけだ。もつたいない。

戦闘の痕跡があちこちにある。この周辺で頻繁に撃ち合いが発生しているのか？

通信機には…全く反応はない。

グリフィンの周波数でも鉄血の周波数でも、どちらも死滅。

この辺りは激戦地帯みたいだ。どこからか常に銃声が聞こえてくる。

誰かは居るのだろうか…：残念なことに遭遇する事はない。

焼死体を見つけた。惨殺死体だ。

二十四日目・曇

死体のスクラップヤードを抜けて見えてきたのはまたぼろぼろな街だ。

いや、標識からすると規模は村といった所か。中で銃声が聞こえる。

死体は見当たらないが……この村にも人類人権団体が潜んでるかもしれない。

残念はずれ、この村に屯してるのはどうやら盗賊団のようだ。

輸送トラック等を強襲してその日その日の食い扶持を稼いでるろくでなし。

おまけに女に飢えてるのか輸送トラックの護衛だった人形を性奴隷みたいにしてるみたいだ。

私も捕まればただでは済まないだろう。

リーダー格と思わしき人間が元PMCの人間らしく人形の行動を阻害する装置を持ってゐるらしい。

さて、それが私に通用するかはさておいて……I・O・P製の人形には致命的だ。

やっぱり撃ち殺すなんて度胸は私には無い。様子を見て助け出すとしよう。

今日はなんとか飯を食べれそう。やっぱり外れの方の廃屋に潜伏。

二十五日目・雨

強盗しに連中が出かけていった。拠点には誰も残っていない。

一応警戒しながら潜入したが残っていたのは……酷い有様の人形だけだった。

拘束を引きちぎってから担ぐとすぐさま私の拠点へ。

そこら辺に転がっていたベッドから布を引きちぎって身体を清めてやる。

反応がないのが怖いな。もう死んでたりしない？

帰ってきた連中が騒いでいたがまた新しい被害者を連れてきたみたい。

その日耳を塞いで夜を明かした。

二十六日目・晴れ

救出した人形が目を覚ました。私を見るなり怯えたけどG&a m p；Kのロゴを見せると落ち着いてくれた。

人形は漢陽88式、RF人形だ。騒がないようにと落ち着かせてから食料を分けるとすすり泣きながら食べた。

そして私が見る限り昨日担ぎ込まれた被害者の人形はアストラだったと思う。

所属を聞くとS09地区の輸送企業所属と答えた。ビンゴだ。

奴らも流石に警戒したのか数人残して出ていった：装置が無いならチャンス。

88式を拠点に残して闇討ち気味に制圧。アストラを救助して：ついでに中に貯蔵されていた食料をいただいてきた。

紙媒体の地図も拝借できたのは大きい。

アストラも酷い有様だ……88式も絶句していた。兎に角ボロ布で身体を拭いてあげよう。

やっぱり帰ってきた連中が騒いでいた。今日の被害者は人間みたい。

襲撃者が誰かと尋問していた。程なくして銃声が聞こえた。

耳につく嗤い声が鬱陶しい。

二十七日目・雷雨

アストラが目覚めた。88式とは仲間だったらしく抱き合っていた。

雷雨のおかげで泣き声を聞かれることはなさそうだ。

二人共武器を破壊されていて戦術人形としては役に立たないと言った。

あと語ってくれたのは輸送企業とこの盗賊団はグルらしい。

損害に見せかけて中の荷物をちよろまかしているらしい。

なるほど、だから抑制装置が有効なのかもしれない。

二人に確認してもらってS09地区までの距離と方角を教えてもらった。

かなり歩くことになる……この辺りは所謂勢力圏外で無法地帯。

力尽きればゴミ漁りに拾われてジャンク扱いで売られる。

若しくはその盗賊団よろしく……ということだろう。

今日の内に保存が利かない食料を食っておいて行軍を開始しよう。

トラップがあるなんて聞いてない。鳴子がうるさく鳴った。

兎に角走る、捕まったらたまったもんじやない。

二十八日目・曇

幸い侵入が発覚しただけで私達は見つかってなかった。

S09地区目指して行軍開始。アストラがすぐにお腹空いたとぼやくが我慢して欲しい。

時折上空をへりが往来するが通信周波数が合わないのか応答してくれない。

G & a m p ; Kのへりじやないみたいだ…

アストラがもう歩きたくない駄々をこねたので私が背負うことに。

88式にM A S S A D Aを持たせて護衛させることに。A S S T非対応だが持つてる持っていないでは別だろう。

鹿だ殺せ!!ジビエだ!!

適当に落ちていた葉っぱと小枝を合わせてキャンプファイヤー染みたことをした。引きちぎっただけの荒い肉を焼いて食べたただけだけど美味しかった。

ハジメテ

二十九日目・晴れ

私の外観がだいぶヤバくなった。手元は血だらけ。

殺人鬼みたいだな。88式もアストラもこれには苦笑い。

どうして鉄血人形であるのにG&Kに？と質問された。

まあ御尤もな質問だ。かい摘んで今までの経緯を説明した。

平成人とかドルフロ云々は勿論抜きで。

鉄血制御下からどういう訳だか目が覚めて人形におはようテザーされた。

今思えば結構理不尽な事をされ続けている。

そして現在進行系で現実には振り回されている。

戦闘も期待されたけど残念私は人を撃つことには躊躇いがある。

それを伝えると怪訝な顔をされた。

動物を容赦なく殺すのに人間をなぜ特別視するのか？

敵対する人間は等しく犬畜生以下と見るのが普通では？

私は何も言えなかった。

昨日は美味しく感じた焼いた鹿肉が不味く感じた。
代わる代わる交代で眠るのも慣れたな。

三十日目・曇

滝を発見、行軍続きな上血まみれなのをどうにかしたかった。

88式とアストラを置いて私一人滝ツボへと突撃した。

頭から水を被って手足を洗うのはかなり気持ちがいい。

もとから服はびっちりしてるから問題なし。

榴弾砲も防水加工されているから平気平気。

気持ちよくシャワー気分を味わった後行軍再開。

まだまだかかるとな。後何日歩き続けるんだろう。

三十一日目・晴れ

廃村を発見：住んでいる人間は居なさそうだ。

手分けして探索を行うがめぼしいものは見つからなかった。

雨風を凌がせてもらおうとしよう。

三十二日目・曇

S09 勢力内は近いらしい。ここまで来たらほぼ安心していいとのことだ。ただ今日中に街にたどり着くのは難しいとのこと。

食料の心配は無くなった。あとは無事に基地までたどり着けるか……勢力圏内に入れば無線も届くかもしれない。

日が落ちてきた頃合いに横穴を見つけた。

今日の宿はここだ。あとは焚き火を用意して一日を終わろう。

88式もアストラも目に見えて気力が湧いてきたようだ。

基地に着いたら輸送企業の摘発がまず第一かもしれない。

アストラを止めろ！ 缶詰を全部食わせるんじゃない！！

三十三日目・砂嵐

森林地帯を抜けて荒野が続く。うっすらと文明的な街が見える。

ようやくここまでたどり着いた……ははは……ようやくだ。

生きてたどり着けた。皆で抱き合って喜びあった。

なんで盗賊団が取り囲むことになるのか。

こわい　こわい　こわい　こわい

……よく覚えていないが多分私は盗賊団を皆殺しにしたんだとおもう。

88式とアストラは無力化されて反抗出来ないようにされていたし。

MASADAを向けようとしてもセーフティがかかるようにIFFに書き込まれて
いたみたいだ。

必然的にこの出来上がってる死体は私が殺った。

ある死体は首をへし折られて、ある死体は木っ端微塵。

ある死体は強力な力で頭を潰されている。

私の手には血糊と脳みそみたいなピンクの物が：

蹲って私は戻した。ごめんなさい…ごめんなさい…殺すつもりは無かった…!!!

三十四日目・晴れ

血塗れのままだがなんとか街へと到達した。

通信も繋がって基地のメンバーが拾いに来てくれるらしい：

88式とアストラの事を伝えるとそのまま保護するとのことだ。

安全地帯まで逃げ込めたんだ。後はどうとでもなる。

後は迎えの部隊が来るまでの時間つぶしだ。

「大丈夫？」

「何が…ですか？」

「人間を殺して…すごい動揺してたけど」

「ああ…もう、だいじょ…うぶ…」

「そこ下水溝あるから!!」

「う…うう…うぶ…ふ…おえええええ!!」

惨状がフラッシュバックする。たまらず戻す私。

背中を擦る88式とアストラ。まだあの死臭が鼻の奥に燻っている。

しかしこの街はなんだか活気が少ない気がする。

聞くと勢力圏内でもハズレの方のスラムに近いと言う。

治安部隊もなかなかすぐにはたどり着かないとか…

周囲警戒は怠れないのか…

とんぼ返り

三十五日目・晴れ

一晩待つてようやく回収部隊が私達を見つけた。

88式とアストラは喜んで抱き合っていた。私も一安心といった所だ。

途中で強盗に襲われたらしく気が立っていた。

そんなに治安が悪いのか？ドルフロ世界：世紀末だから仕方ないか。

実際に私も盗賊団に襲われて殺したくらいだし：

殺らなかつたら私がやられていたんだろうな。見る目がいやらしかった。

ここまで来たら武装を持たなくても良いだろうけど：一応装備だったM A S A D A

は返してもらった。

やっぱり人殺しのことを考えると手が震えてくる。

人形相手でも多分震えてろくに撃てないんだと思う。

どうしよう、戦術人形となるのにこれじゃ欠陥品だな：

本社に送り返されるだけかもしれないけど

輸送車両に乗せられて揺られること数時間。

目まぐるしく変わっていく景色に目を向けながらこの世界で目覚めてからのことを考える。

戦術人形、拷問、世紀末世界を生きる人間の生き意地汚さ。

人類人権団体：幾つも廃棄された街・村：

私は多分だけ善良な普通の平成を生きていた日本人。

何の因果でこの世界に迷い込んだのか知らない。

けれどもタダで死ぬつもりは無い。

痛めつけられるのもうごめんだけど。

S09地区の基地へと運ばれる最中どうやって生存したのかを聞かれた。

かい摘んで話したが当たり障りのない話しだと思おうし面白みもないと思う。

待った、この輸送車両どこに向かつてる？

早速任務？いや聞いてない。隣地区のS10地区に救援要請が入ったから向う？

指揮官に顔合わせもすること無く実戦投入か：また目まぐるしい一日になる。

要救助組でまともに戦えるのは私だけだが：

重要拠点を奪還した部隊が鉄血に囲まれたらしい。

その包囲網を打破するべく私達が行けとのことだ。

銃声が聞こえてくる。日は傾き始めている。

夜戦になるな。鉄血製のボディはやたらと高性能で夜だろうが問題なし。

まだ：怖いが生きるために：頑張らなければ。

車両で待つ88式とアストラに手を振って戦場へと飛び込んでいく。

鉄血製の通信モジュールには相手側の通信が入ってきている。

ハイエンドモデルは周囲に居ない様だ：もしかしたらコントロールを奪取できるかもしれない。

乗っ取れたけど私配下になったこれどうしよう？

相互破壊させてお終い？それが良いのだろうか。

叛逆の疑い？まって、そんな：私来たばかりなんですけど…？

三十六日目・わからん

鉄血人形を簡単にコントロールジャックしたのが不審がられたかS10地区の人形に捕らえられた。

まーた拘束生活。88式とアストラが猛抗議してたけど聞く耳なし。

本部と問い合わせして再びI・O・P送り…らしい。

鉄血人形を撃つのをためらう動作も怪しいと睨まれてしまった。

行動ログを提出してから営倉にぶち込まれた。

一応ながらG & amp; K所属の人形だからまた殴られてどうのこうのは無いらしい

：

本当にやってみたら出来ただから私からの弁明もなにもない。

営倉とは言え食事も出たし人の活気が近くにあるのは精神衛生上良い。

三十七日目・晴れ

またI・O・P送りになった。鉄血のコントロールジャケットを解析できれば戦略的に優位になる。

そういうお達しで私はまたヘリコプターに詰め込まれて輸送されていく…

ぐつばいS I O、絶対に二度と来ないよ。

とは言っても私の身体の解析は出来るのだろうか？

高度な対ハッキングセキュリティで解析できなかつたという。

何度かチャレンジしてみるんだろうか？

痛みを伴わない実験なら別にどうでもいい。

あと美味しい食事があればそれでいいんだ。

ペルシカ姉さんが迎えてくれたからすぐさま抱きついた。

早速だが私の解析が始まった。ついでに急ごしらえじゃないちゃんとした服をくれるらしい。

あと配属先も再選考するらしい…また撃ち落とされるようなことはごめんだ。

今度は陸路で運搬するから安心して欲しいと社長は言った。

暇な間はVR訓練でも受けておけと言われた…

やつぱりセキュリティがキツくて解析は難航してるみたいだ。

掃除当番デストロイヤー

三十八日目・晴れ

しばらくという期限付きでI・O・Pに戻された私。

毎日ペルシカ姉さんのラボにお邪魔して電脳解析に協力。

データを引き出しては私も拙いなりにお手伝いをする。

私の意思に反応してセキュリティも緩くなるか…なんて期待したがそんなことはなかった。

もつぱら私はタダ飯喰らいになつてる気がする。

タダ飯は嫌だからなにかお手伝いがしたいけど私じゃ力になれない事しかやってない。

せつかくだからとVR訓練に参加することになった。

戦術人形は私以外には出荷前のWA2000とダネルNTW20、SPAS12が並んでいた。

SPASと私で前線を構築しながら敵を順次殲滅していくという作戦になった。

まだ衣装は出来上がっていなくG&P;Kのロゴが入った黒タイツみたいな服

だ。

VR空間はほとんど障害物のない真っ白な世界だ。

遮蔽物になりそうな物と言えばオレンジに着色されたブロックだ。

敵兵として現れるのはそこそこの耐久力をもった鉄血兵。

ザコ敵であり名前は覚えていなかったがボディが変わったお陰かすぐに名前が出てくる。

リッパーにヴェスピード、ガードの三種類になる。

思考ロジックはかなり単純だ。兎に角近づいてきて弾をばらまいてくる。

狙いはいい加減で落ち着いて撃てばまず貰うことはない：

だけでも：訓練でも私はろくに撃てなかった。

壁にはなれたけど一向に撃つことが出来なかった私は味方から非難轟々だった。

当然ながら報告が上がり私はG & amp; Kとの契約を一時凍結。

問題解決まではI・O・Pで預かることになった：

ASSTまでしてもらったのに私は何の役にも立てないんだらうか？

殺すことに躊躇いがある人形はコアを抜いて民生に降りることもできるらしい：

しかし私は鉄血製、コアの撤去がどう悪影響を及ぼすか不明。

よって私は撃てる様になるまでか：そのままI・O・Pでの有用な活用が見つか

るまで凍結。

手持ち無沙汰だったので掃除を申し出た。

すると最適なものがあると案内されたのはベルシカ姉さんの部屋だ。

いや、酷いなこれは：見渡す限りのゴミ！ゴミ！ゴミ！！

食い散らかしたパンくずに洗われてない衣類の数々。

そして極めつけは放置されて異臭を放つ生ゴミの山！！

じゃ、よろしく。と私の肩を叩いてI・O・Pスタッフはどこかへと行った：

一日頑張っても片付けしきれないゴミ屋敷って何？

三十九日目・曇

私の解析は結局掛ける労力と見返りが合わないとして破棄された。

射撃訓練を行いつつ戦術人形として機能するようになればG & a m p ; Kに派遣する。

そうでないならI・O・P所属のお掃除係として動くことに。

そんなせいか私に支給された衣装はメイド服だった。

キヤリコのメイド服をベースにサイズアップしたらしい。

お陰で馬鹿みたいに大きな胸もすっぽり収まってくれている。

装備もモップにチェンジされた。これでペルシカ姉さんの部屋をきれいに片付けろということだろうか？

入れば相変わらずのゴミの山。ここで寝てると思うと感性を疑う。

兎に角幾つかのステップに分けることにした。

まず捨てるものを確保してから部屋から追い出す。

食べかす生ゴミ丸められたティッシュ何かの梱包材にダンボール。

これらが片付くだけでも全然違ってくると思う。

ばかみたいなのゴミの量だった：なんでタンポンまでそこら辺に捨ててるんだ？

この女には羞恥心というものが無いのだろうか？

散らばった書類は流石に私の独断で捨てるのは憚られる。

纏めてペルシカ姉さんに判断してもらおう。

脱ぎ散らかされていた衣類も洗濯物として回収。だいぶ片付いてきた。

さて、これで今日はペルシカ姉さんの快適性は上がったんじゃないだろうか？

仮眠室で寝てるだつて？ 私キレていい？

四十日目・晴れ

残虐行為にたいする耐性があるかどうかのテストをさせられることになった。

所謂殺戮系のシミュレーションをさせられることに。

何をするのかと思つたらゲームをしろとの事だ。

やるゲームはPost-al2、名前はどこかで聞いたことがある気がする。

よく出来たレプリカだと職員は話した。じゃあプレイしていくことに…

お遣いゲームらしいが…言われるがままに進行していく。

ゲームなのにゲーム反対デモとはブラックジョークだな…

初日でクビになる主人公…ここまでならタダの不憫な物語だが…

え？デモ隊が武装して襲つて…警察は何をボサツと突つ立つてるの!?

社員と社長が普通に応戦して…え、えー？何このゲーム…

正直胸にこみ上げるものがあるがこらえて進む…私は殺しはしない…

あ、殺された…ゲーム進行出来なくなか？殺せというの？

月曜日編を終わらせた後私はトイレに駆け込んだ。

二度と残虐ゲームはやらない。

殺す事に忌避感が強いつて診断が出た。そりやそうだ私はそんなのと無関係…だつ

たと思う。

痛めつけられるのにはどこか慣れた感じがあつたけど。

四十一日目・曇

殺す事への忌避感が拭えない私だったがそれならばI・O・PやG&P;K本社での雑用に専念しろとお達しが出た。

つまりはI・O・Pのお掃除ロボの一人となるのだ。

施設を自由に歩き回る為のIDカードと就寝用の部屋も用意された。

戦闘用ではあるが民生人形用の家事周りのデータをインストールされた。

これにより私は家政婦となるわけだ。

もっぱらペルシカ専属のお世話係だ、この女放つて置くと研究以外ズボラなのだ。

コーヒーが主食と言わんばかり：この世界でのコーヒーの価格は目が飛び出る。

それを毎日啜ってるのを見るとかなりの高給取りなのは間違いないのだが：

朝昼晩の飯の用意と徹夜をしようとするペルシカの強制連行が私の仕事だ。

あとまだ汚さがある部屋のお掃除だ。

世紀末世界でこんな平和に過ごしていいのだろうか？

え？明日は街の清掃に出かける？そんなあ：

I. O. Pの家政婦

四十二日目・曇り

I. O. Pの中だけじゃなくて街の清掃キャンペーンに尽力してこいと追い出された。

馬鹿みたいにデカイ榴弾砲を担いだままなんだが…それは良いのだろうか？

お世辞にも治安が良いとは言いい切れない世界だから目に見える抑止力が必要なのだろうか。

私は箒片手に街に繰り出した。詳しいことは清掃キャンペーンの係員に聞けとのことだ。

私の名前の由来ともなった白いスマイレの刺繍入りのメイド服。

こんなのが出てきて清掃するのはどうなのだろうか？秋葉原のコスプレイベントではないのだが。

あの黒タイツじみたので清掃活動してもどうなんだろうと思うが。

普通の服は無いのだろうか？Tシャツにスキニージーンズでいいんだ。

そしてこの榴弾砲を外したら顔色の悪さを除けば普通の人間みたく見えるんだ。

血色の悪い顔も化粧とかで誤魔化そうと思えば誤魔化せれる。

指定されたポイントに到着すると数多くの箒を持った人が待つていた。

何人か同じ顔が見えるから恐らく人形なんだろうと推測される。

それ以外にもえらく表情が硬い。美人なのに表情が硬すぎる。

そして不気味なのが一拳一動に全くの乱れなし。コンマ一秒すらずれてない。

ああこれ全員人形だなんてわかつた瞬間だ。

私の担当地域はどこだ？うわ、町外れの路地つて：

汚いな、ゴミは散らかり放題だし：なにより臭いが酷い。

日が当たりづらいのか薄暗くてジメジメしてるし：

よく見ればホームレスと思われる人間があちこちに見受けられる。

天下のI・O・Pが存在する街でもこんなものなのか：

薄っすらと覚えている日本でもホームレスは居たから：：しようが無いのかもしれない。
い。

それはそれとして掃除していきましよう。少しでも環境を整えてあげるんだ。

それが私に今できる社会貢献というものだ。

先程からホームレス達の視線が突き刺さるな：

不良と思わしき人間がホームレスを蹴る殴ると暴行を加えていた：

弱い者いじめか：見ていて良い気分はしない。

止めに入ったが標的が私に切り替わった。

身体を舐め回すように見られてもつと奥の路地に連れ込まれた。

抑止力の榴弾砲も効かないとなると平和的な交渉はできないだろうか？

下衆な連中だったがすこし交渉することは出来た。

私ですこし我慢してご奉仕したら良いとのこと。

掃除の時間が削れてしまったがホームレスへの暴行が止めば良いが：

美人に蔑まれながら踏まれるのが良いなんて理解に苦しむ。

四十三日目・晴れ

ペルシカの部屋を今日は完璧に清掃し終える。

そして今日の夜はここにペルシカを打ち込んでから眠る。

これが私の今日の目標になる。

そういえば近々この榴弾砲を取り外してから自衛用のスタンガンをもたせる予定ら

しい。

ん？なんだろうコレは：G & a m p ; K社内報？持ち出し厳禁なんて書いてるじゃな

いか。

なんでそんな物がペルシカの部屋に落ちてるんだ…

ちよつと気になるが清掃を終えてからだ。絶望的なまでに汚いベッドを干さなくては…

床にも何が乾いたのか知らないがカピカピだし…雑巾がけも必要だな。

本当に魔境だよこれ。I. O. Pの社員もこうなる前に注意して欲しい。

さて、人が住むに適した環境まで戻したからマットを外したベッドフレームに腰掛ける。

ちよつとだけ社内報とやらを覗くとしよう。

表紙は少年誌ような色気を振りまく人形のグラビアだ。

中は各地方基地の情報みたいだ…と言つてもどんな騒ぎがあつたか…といった所。娯楽誌に近いのだろうか？読み進めていくとトピックスが幾つか見つかる。

D08地区に新しい人形が見つかる…その名もHK417…416に似てる気がするが…

こんな人形ドルフロに居たか？

つてこの社内報何ヶ月も前の奴じゃないか。処分だ処分。

天日干しに晒した布団とマットは幾分いい具合にはなつていた。

これで仮眠室で眠るなんて事はさせない。

いい時間帯だし昼食を摂ってペルシカにも届けよう。

社員食堂のご飯はそこそこ美味しかった。

食べる暇も勿体無いとこねるペルシカだったがあーんするからと言ったら言うことを聞いた。

私が介護しているような気分になるんだが：

天才的なのだろうが生活力はとことん死んでいる：

さて、この女臭うぞ：：さては風呂すら面倒臭がつてるな？

それは女としてどうかと思う。夜になったら絶対に引きずってでも風呂場に叩き込まなければ。

案の定風呂に入っていない等と抜かしたので首根っこ捕まえて連行した。

研究員もホツとしていた：チーフは臭う等と言っていたぞ。

文句を言うペルシカを無理矢理バスルームに押し込んで全身洗うことに。

全く：持つてるものはあるというのにどうしてこうも残念なのか。

ゲームの向こうで見た時はときめいてすら居たのに：私のとときめきを返せ。

キレイキレイさっぱりさせたら研究所には行かせずそのまま部屋に連行。

限が酷いから絶対に6時間睡眠させる。睡眠不足は短命につながる。

徹夜での監視は辛かった。

ヴィオラの私服

四十四日目・雨

I・O・Pの服飾部門に今日は訪れた。いろんな服装が並べられている。

普通にカッコイイ服や可愛い服も多く並んでるが：キワモノも多い。

誰が着るんだかと思うフェレットの着ぐるみが異彩を放っている。

水着や巫女服：この世界で日本は生き残っているんだらうか？

祖国の行末は少しばかり気になる：後で調べてみようか：

今日こうして訪れたのはメイド服以外が良いとごねてみたんだ。

そうすると職員から「じゃあ見てから好きなの選べ」とキレられた。

いろんな人形の服装が揃っているから好きなのを選んで良いみたいだ。

サイズの合わないものはアジャストしてアレンジを加えるとのこと。

いま着ているメイド服も刺繍の中に名前の由来のスマイレが書かれているし。

そういったアレンジなんだから？

デザイン部門も兼ねているみたいで様々な服の原画があるみたいだ。

ついでにと私に色々着てもらってグラビアを撮るつもりらしい。

G & a m p ; K に売りつけて表紙を飾ったりキャンペーンポスターの顔にするらしい。

些か嫌な予感がしないわけではないが：仕事とあれば断れない。

他の P M C にも売り込みに使ったりするらしい：色仕掛けみたいなものか？

私は鉄血製なんだが：そのへんは良いのだろうか？

戦術人形として戦えるようになったら売り込むから？

多分そんな日は来ないと思うけど：まあ考えておきます。

待った、何だこの紐みたいな水着は!? これを着ろつていうの!?

拒否権は無いのか!?! ぶざけん

無理だった、無理矢理着せ替えさせられて紐ビキニで恥ずかしがってる写真を撮られた。

その他にも数点のビキニを着せられた：最初のインパクトが酷いが他もなかなかに際どい。

競泳水着は普通に着れた。これくらい露出が少なければ…

その後コンペ中と言う服装も着せられた。

男装から始まりクリスマスチツクな衣装、バニーガール、パーティードレス…

どれもイロモノ揃いで私が着せられてる感が半端ではなかったのだが。撮影班は会心の出来だと言わんばかり：全部押し付けられてしまった。

こんなの着るくらいなら黒タイツで良い。初期の服装で良いよ。

メイド服に着替えてから見て回ったら普通にストリートファッションがあつたからそれを頼んだ。

M G 3用のコンペ中の物らしい。オフショルダーカーディガンにキャミソール、ホットパンツにタイツ、ブーツの組み合わせだ。

日本と言う春から夏始まり：秋口等で着れる服装だろう。

マフラーなんか巻けば冬も我慢したら行けなくもないな。

そう矯正しなくても着れそうだ、試着してみると胸が若干キツく感じるが着れた。

戦闘用の榴弾砲も装着できそうだしこの服装が良い。

でも仕事着はメイド服固定。まあ掃除要員ですからね。

明日は休みだからちよっと遊んでこい？

四十五日目・晴れ

遊んでこいと言われたが貨幣は持っていない。適当に歩き回るしかない。本社周辺は整っていて警備の人形が彷徨っているため治安はかなりいい。

しかしながら少し離れば警備の目も行き届かなくなり…

街の外れともなれば犯罪多発地域となる。軽犯罪ですんでいるのが救いか。遊びになる施設も町外れに多いので必然的にそちらに行くしかない。

今度の休みには給料が出るらしいから今日は視察だな。

私一人でも安全に出歩ける範囲というのも把握しておくのが良い。

争いごとは私は苦手だ。人形のパワーで無理矢理突破する事はできるけれど…銃を持ち出されたら私は抵抗を止めなくちゃいけない。

そうなればどうなるかなんて火を見るより明らかだ。

衰退していく世界、荒れ果てた街に女一人。男が求めるものなんて決まりきってる。

日本だったら銃社会じゃなかったから大勢相手しても切り抜けられそうだが…

外れの方に来るとほぼほぼスラム街といった様子だ。

荒れ果てた建物の数々にあちこちに居る浮浪者、ゴミ漁り…

闇市と思わしき露店に路地裏には幾つも並ぶダンボールハウス。

ここまで貧富の差が出るものなのだろうか？

物乞いと思われる少年にも出会ったが手持ちがないと知るや否や蹴られた。

不幸だ。

古いアーケードゲームを扱う店を発見し中に入る。

怪しげなピンクのネオン管が目印だ。

中に入れば見つかるのは1990年代のアーケードゲームだ。

思わず懐かしい等と思ってしまう。私はどうやらその年代を知ってるようだ。

筐体で遊んでいる若者が私に奢ってくれた。これはラッキーだ。

あ？奢った代わりに良い事させる？

おおつと銃をチラつかせられた：これは抵抗できませんね：

治安維持隊にSOSを出しても急行しても時間はかかる：

しょうが無い、こういうのも経験だ：別に初めてという事でもない。

ばふばふで良いのか：

ヴィオラの大改革

四十六日目・雨

ペルシカの不摂生には困り果てる。

いくら口酸っぱく言っても改善する様子がない。

相変わらず目の下にはくつきりと隈が出来上がっている。

私が動かないとシャワーに入らない：不潔だから入って欲しい。

今回は何を研究しているのか不明だがしきりに私のデータを採取している。

主にハード側のデータを取っている：ソフト面が無理ならハードを弄るつもりなのか。

今現在装備として貰ってるのは左腕に装着する物理シールドぐらいだ。

外観はまったくもって鉄血のデストロイヤーと変わらないから不審がられるのを危惧したのだろうか。

ともかく良い所で区切りをつけて食事をするようにと告げてI・O・Pの中を掃除する。

他にも掃除ロボが居て私の担当区画はペルシカのラボとペルシカの私室周辺だ。

何かあった時の防衛策的な位置付けなのだろうか？

ん？私と一緒に食事を摂る？更生してくれたか？

ついでにコレを飲め？なんだろうこのカプセルは？

強化カプセル？私に効くのだろうか。

楽しく談話しながら食事を摂っていたのだが途中でえらく眠くなった。

まさか盛ったか

次に目が覚めたらえらく胸元が重く感じた。

何事が起こったのかと起きてみたらペルシカがそれはいい笑顔を浮かべていた。

どういう事かと説明を求めたら黙って姿見の前に連れてこられた。

気が遠くなるのを自覚した。

まず鉄血特有の血色の悪い肌が若干人間味を帯びた事だ。

これは良い事だ。そして瞳の色もどうやったか青色に染められていた？

ここまでは良い：だがなぜ元々デカかった胸を輪をかけて大きくする必要があった

？

グラビアで受けが良かったからもつとエロティックなボディにしてしまえ？

ついでにいろんなお楽しみを加速させる機能も追加した？

バカなんじゃないか？ 私になにを期待してるんだこの変態科学者は。

鉄血に絶対恨みタラタラなんだろ？ 私に八つ当たりするのは止めていただきたい。

メイド服もクラシカルなスタイルでそんなにエッチく無かったのに大胆な胸部スリットを入れて：

こんなの娼婦みたいじゃないか。フレンチメイドですらまだおとなしいと思う。

HK417のデータを反映した？ あれより大きい？

確かに大きいと思っただがそれはおかしい。

重い、走れない。不便極まる。

四十七日目・雷雨

今日は新人指揮官が挨拶に来るらしい。

私はあまり会わずに黙々と掃除していたい。

どうせ会っても戦闘は出来ない戦術人形なんだ。

私は民生人形みたいにせつせと働いておくに限る。

とかかと思っただけペルシカが普通に私を紹介しやがった。

人が静かにして平穩に過ごそうと思っただら：

聞けば新しくD09地区に赴任する指揮官らしい。

性格に難があるが優秀な成績をとっている…握手したが手汗びっちょびちよだ。そして私の顔から足先まで何度も往復している。

すこしは血色が良くなった私の顔がよっぽど気に入ったのかシミュレーションで動かさせてくれとなった。

いや、勘弁してください。私は銃を握れないんですが。

あれよあれよと結局銃を握らされてVR訓練に…

やつぱり駄目だ。人形相手であつても撃つことに罪悪感を覚えてしまう。

でも最初に比べて一応無力化には成功しているから前進したのだろうか？

撃つのが怖いのは良い、楽しいなんて思ったら犯罪者と変わらない。

そう指揮官は言つて私を抱きしめた…

ここまでなら普通に認識を改めていたが抱きしめた際に胸に顔を埋めていたので幻滅した。

蔑む目で見たら興奮された。なぜだ？

一応ながら拒絶反応が軽減していたのが気になったのかペルシカにまた連れられて研究所に詰められた。

うわ、何をするやめ r

AIの一部に覆いかぶさるようにプログラムを入れることに成功したとのことだ。

試しに撃ってみるとまたVR訓練に叩き込まれた。

……驚くほどに無反応に撃ち殺せていた。私に何をした？

まるでゲームと変わらない感覚で撃ち殺していた……

ただ人間と認識した相手にはやっぱり……怖いと思う……これは？

ペルシカが言うには鉄血側のIFFがしぶとく残っていた……という。

それが私の思考に食い込んで殺戮を良しとしなかった……

緊急時にはそれが外れていたのだからという。

私はそんな人形じゃない。人間なんだぞ……？

遠くで鳴る雷の音がやけに耳に残った。

四十八日目・曇り

変わらず清掃活動だ。G & amp; Kに出向になる気配は今の所ない。

ペルシカはちゃんと私のお小言に反応してくれるようになった。

といつても結局は私が引っ張っていかなければ行動に移さないが。

午後はまたお外で清掃しろ？またスラムはかん……またですか。

到着後秒で不良BOYに囲まれた。もう勘弁してくれ。

どうして私が輪姦されなくちゃいけないんだ……（検閲によりモザイク処理）

誰のせいでもうなったと思ってんだ。ペルシカこの野郎。
楽しかっただろう？ふざけんな。

ふあつきゅー世紀末

四十九日目・曇り

不良BOYたちに呼び出された。

I・O・P職員は構わん、行けと私を追い出した。

鉄血人形と人間の反応を見る大事なテストだと？

そのままに無理矢理飲まされたカプセルも気になるが…

やって来たのはもう私にとっては馴染み深いスラム。

クズ人間の吐き溜まり、職なし希望なし。

それでもしぶとく生き残ってる地上の蚤といった所か。

私は都合のいい女じゃないんだが…

ただのしがねい清掃用の民間人形もどきで十分なんだが。

清掃活動も普通の清掃活動がいつていうのに…

ああ平成の世がどんなに良かったかを痛感させられる。

また私を■■■■してからそんなに楽しいのか？

いや、まして…私に群がるな！

その汚い手を向けないで！

いやだ！嫌だ!! だれか助けて!!!

キミも途中から愉しんでいたって？職員共から殴ってしまおうか？

無駄な機能ばっかり付けて私の身体を何だと思ってるんだ。

貴重なデータ取りの玩具!?! 私はそんな扱いを受けていたっていいのか!?!

最初のあのハグは!?! 打算から来たものだって？

人間不信に陥りそうだ。私が何をしたって言うんだ。

五十日目・雷雨

妙に身体が重い：人形の身体になってからこんなのは初めてだ。

ペルシカなんか顔も見たくない。

I・O・Pの連中は私の身体を好色的な目で見てくる。

私の身体をこんな風にしたのはお前らだろう？

責任を取れと言っても帰ってくるのは実験実験実験。

何だろう、酸っぱいものが欲しい。

要求すると気持ち悪いくらいに素早く届けられた。

まるで私が要求するのが分かっていたかのようだ。

なんか気持ち悪い。吐きそうだ。

つわり？は？

意味がわかりかねる：

人形を妊娠させるためのテストベッドにした…？

何も知らされていないのにそんな事をさせていたのか…!?

この外道！道具をどう使おうが勝手だ…？命を何だと思ってる！

流れた。まだ実験が足りないだって？

こんな事を続けさせられるなら人殺しをしたほうがまだましだ。

G & a m p ; K に出向させてほしい。

人の体を弄ぶだけ弄んで…ようやく戦術人形として動く気になった？

お前たちと同じ空気を吸いたくないんだ。

五十一日目・清々しい晴れ

G & a m p ; K に引き渡される前に V R 実験が行われた。

久しく握ってなかった M A S S A D A を握り仮想空間上に現れる鉄血人形を全て指定弾数以内で仕留めれたら良し。

手加減なんかしない。最初から榴弾砲をぶちかました。

文句なしで戦術人形として戦えることを証明した。

実験のモルモット兼デザイナー班のおやつがいなくなるのが残念？

私はもう二度とこの本社つてところに足を踏み入れたくない。

ここに入るくらいならスラムに住み着いたほうがまだましだ。

元の服返せ。メイド服なんかどうでもいい!!

G & a m p ; K社に着けばクルーガー社長が出迎えた。

随分と変わった私の姿に目を背けた。目に毒だったか？

ヘリアンさんもお久しぶり。やさぐれた？この世界に慣れたただけだ。

早速だが私の配属先が決められた。

D09地区：嫌な名前を思い出させられる。

恐らく別な基地に異動になったんだろうが私を尋問したセクハラ指揮官がいた所だ。

そして新しく入った指揮官もまたいやらしい感じを受けた所：

言外にイヤという表情を出したのだが他に無いと言ひ渡された。

セクハラ対応窓口もあるからそこに連絡しろと言われた。

それ機能してるのならセクハラなんてなくなってるだろう？

よっぽど無能か罰が軽すぎるんじゃないか。

今日はゆつくり休んで翌朝陸送する：らしい。

五十二日目・雨

陸送される最中私について色々聞かれたが答える気にはならなかった。

面倒、無駄。紹介なんて後でする。

着任早々にセクハラされた、一応ながら窓口に相談したが返事は返って来なかった。

他の人形も諦めている。とりあえず殴っておいた。

人形一人を貸し出す依頼が来てるから早速行つてこい等と言われた。

嫌な予感しかない。拒否権なんて使わせてはくれなかった。

何この状況。

私全力で追いかけて回されてます。

護衛任務かと思つたら護衛対象に裏切られて危うく昏倒させられそうになった。

で、今敵に追いかけて回されて逃げ惑っている。

指揮官も通信に応じない。グルか元々そんな風に切つて捨てたか。

何が何でも生き延びてやる。

「いやー…すごい嫌われたね」

「主任、貴重な鉄血サンプルをなぜ逃したんです？」

「さあ、なんでだろうね」

「まあ良いです、残ったデータから研究を進めましょう」

「上からの命令とは言えこれ以上非道な実験させたくなかったんだよ…ごめんね、ヴィ
オラ…」

The End

何処までも逃げる。まだまだ追手が来る。

D09の指揮官は依然としてつながらない。やっぱり裏切られたのだろうか。

無駄に巨大にさせられた胸が邪魔して早く走ることが出来ない。

私の弱体化を狙ったの改造を施していたのだろうか？

今回襲ってきた連中は所謂人形強奪団の連中だ。

G & amp ; Kや関連PMCに配備されているI・O・P製の人形を強奪して貧困層に叩き売る連中だ。

電脳に悪影響を及ぼす機器類も持っているんだろう。

ああそうだ。私が以前殺した盗賊団と変わりはしない。

人形をただの性処理道具にしか考えてないクソツタレ達だ。

捕まれば最後私の一生なんて決まる。

平成の40年間奴隷契約よりも酷い契約を無理矢理交わされる。

「居たかー!」

「いいや、居ない…どこに隠れやがった…」

「なんとしても探し出すぞ。貴重な鉄血ハイエンドだ！」

追手の数は今の所3…もうすぐで撒けそうだ。

「チツ…反応はこの付近なんだが…」

残念、探知機のようなものがあるらしい。

私はどれだけ頑張って逃げてても逃げ切れないのかもしれない。

撃ち殺すか…

「別働隊は」

「もうこの付近を包囲し始めてる」

「へ…捕まえたら祭りだな」

「ああ…あのドスケベボデイの味見だな…」

「ごろつき連中も雇った、もうアイツは逃げられねえぞ…」

物量が違うか…下手な発砲は位置を晒すだけになる。

幸い相手のもつてる探知機とやらは精度がそこまで良いわけじゃ無いみたいだ。

万が一に再び暴走した際のセーフティにと対人間に出力リミッターが掛けられて抵抗もままならない。

G & amp ; K 的にももう私はロストしたと思われるかもしれない。

かけるとするなら…また放浪になるが隣地区まで徒歩での逃走を図る。

奴らが包囲したと言うことはそれだけの人員を素早く展開する何かがある。

まあ自動車……ないしそれに準ずる物があるはずだ。

それを強奪できれば後は逃げ切れる……

「くそっ！探知機のバッテリーがきれた！」

「おいおいスペアはねえのか！」

「この一個しかねえよ！」

ここまでの不運のツケか転機が巡ってくる。

逃げ切れる……勿論私が奴らに見つからず……もしくは包囲網を突破できればの話だ。

身を屈めているより一気呵成に畳み掛けたほうが良いかもしれない。

相手の総数はわからない。榴弾砲の残弾は一気に殲滅できたとしても限りはある。

MASADAの残弾もそう多くない。牽制射撃なども含めたら……

物量に押し潰されて捕まり奴隷ENDだ。

私はそんなつもりは一切ない。

しばらくしない内に包囲網と思わしき男連中を視認した。

ぎつしりと並んで密林の中を進んでいる……集まっているとどうなるか思い知らせて

やる。

”ポントツポントツポントツ”

狙い通りに飛んでいく大口徑榴弾。

いきなり鳴り響くこの間抜けた音に気づいたみたいだが。

どう逃れようとも私の誇る瞬間火力、攻撃範囲から逃れることは叶いそうにない。

「ドッカーン……てね」

爆発音でにわかに騒がしくなる後方。

跡形も残らず……いや、手足が幾つか残っているがほぼミンチになった人間の死体。転がってきた頭は炸裂した鉄片で切り刻まれているが恐怖に染まっている。

もうどうとも思わない。私に手を出したのを後悔したらどうだろうか。

「バイク、しめた。キーも付きっぱなし」

とととおさらばするだけだ。

隣の地区まで逃げてしまえばもう追ってくることはないだろう。

燃料がそう入っていないく隣地区の勢力下に入った辺りでガス欠になった。

それから食料も無しに放浪することになり……

「……………クソツクくらえ」

ついに私のエネルギーの底をついた。

いくつも視界の上に浮かび上がる警告メッセージが鬱陶しい。

まぶたが重たくなってきた…こんな幕切れか…

遠くで銃声が聞こえる。流れ弾でそのまま私も殺してくれたら良いのにな…
私の意識はそこで潰えた。